

公益財団法人平野政吉美術財団

平成 27 年度事業報告

<総括>

平成 28 年度の事業については、当財団の目的に沿い、平野政吉コレクション、および藤田嗣治作品の展示公開、教育普及活動、および調査研究を行った。

秋田県立美術館の施設管理については、指定管理者として適切に行った。

- 展示公開事業については、常設展の他、企画展を 3 回、特別展を 2 回、開催した。
秋田県立近代美術館との連携事業である特別展「田園にてー秋田の風景・子ども・女たちー」は、秋田へのまなざしを比較しながら、木村伊兵衛と千葉禎介の写真、高橋萬年の日本画と勝平得之の版画を展観した。とくに千葉禎介の生涯を辿る写真を秋田市で初めて紹介し、好評であった。
特別展「藤田嗣治の小宇宙～私のアトリエによろこそ～」は、マスコミとの実行委員会形式で開催した。藤田が日本で構えた 4 室のアトリエを一部再現し、そのアトリエで制作された作品を展観した。藤田にとってのアトリエの意味と画業の方向性を浮かび上がらせた内容が好評だった。
企画展「藤田嗣治と平野政吉 まぼろしの美術館 1936-1938」は、秋田県立大学込山敦司准教授の研究成果を紹介する展示内容で、報道にも取り上げられ、また隣接する秋田市にぎわい交流館での演劇との相乗効果もあり、昨年同期に比較して来館者が大幅に伸びた。戦時体制下、建設中止となった美術館を復元したリアルな CG 映像や模型が注目された。
- 教育普及事業としては、企画展・特別展に関連した講演会を 2 回実施した。講師は、まぼろしの美術館を CG 再現した秋田県立大学准教授込山敦司氏と、日本の戦争画研究の第一人者・千葉工業大学教授河田明久氏であった。また、はじめての試みとして、秋田市との連携し「早苗饗トーク」を実施した。学芸員によるギャラリートークは、それぞれの展覧会会期中、2 回もしくは 3 回実施した。《秋田の行事》について解説する定例ギャラリートークは解説員が担当し、月 1 回および竿燈期間に実施した。秋田県で実施した文化体験事業により、セカンドスクールの来館校数、児童・生徒の来館者数が激増したため、綿密に見学計画を立て、充実した鑑賞を提供した。
- 調査研究活動としては、藤田嗣治の画業および平野政吉についての調査を進めた。成果は、特別展「藤田嗣治の小宇宙～私のアトリエによろこそ～」をはじめ各展覧会に生かした。また新聞への寄稿、および講演会の講師としても調査成果を発表した。
- 美術ホール運営事業としては、秋田県が実行委員会形式で主催する事業の大規模な準備に対応した。一般団体にも、使用しやすいよう配慮し対応した。セカンドスクールで来館した多くの学校が、県民ギャラリーと展示室の両方を鑑賞した。
- 売店事業は、来館者へのサービスの一貫として、鑑賞をより豊かなものにするため、業者への委託販売とインターネットでの販売を展開した。

I 展示公開事業

(1) 常設展示事業

常設展 平野政吉コレクションⅠ

- 1 会 期 平成27年4月1日(水)～平成27年5月7日(木)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、戦前の美術館建設提案にともなって、平野政吉が購入した藤田嗣治作品を展示した。
- 4 入場者数 4,895人

常設展 平野政吉コレクションⅡ

- 1 会 期 平成27年5月10日(日)～平成27年7月21日(火)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、中南米でマドレーヌをモデルに描いたデッサンなどを展示した。
- 4 入場者数 9,508人

常設展 平野政吉コレクションⅢ

- 1 会 期 平成27年7月24日(金)～平成27年9月29日(火)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、《北平の力士》や《客人(糸満)》、《私の画室》など、藤田嗣治の代表作を中心に紹介した。
- 4 入場者数 15,258人

常設展 平野政吉コレクションⅣ

- 1 会 期 平成27年10月3日(土)～平成27年1月17日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、マドレーヌがモデルの作品を中心に、自画像やアトリエを描いた作品など、藤田の1930年代の代表作を紹介した。
- 4 入場者数 20,467人

(2) 企画展示事業

企画展 藤田嗣治の旅Ⅰ -中南米からアジアへ-

- 1 会 期 平成27年4月1日(水)～平成27年5月7日(木)
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、中国や中南米に取材した作品、旅行中に収集した品々や現地で入手した宗教画を展観。加えて、日本で描いた作品も展示した。
- 4 入場者数 4,895人

企画展 藤田嗣治の旅Ⅱ -マドレーヌの好きなメキシコ-

- 1 会 期 平成27年7月24日(金)～平成27年9月29日(火)
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 マドレーヌに焦点を当て、藤田嗣治がブラジルやアルゼンチンでマドレーヌを描いたデッサンや、中南米でのデッサンを生かして制作された油彩画《五人女》、藤田が中南米で収集した品々などを展示した。

4 入場者数 15,258人

企画展 藤田嗣治と平野政吉 まぼろしの美術館 1936-1938

- 1 会 期 平成27年10月3日(土)～平成28年1月17日(日)
2 会 場 ギャラリー1・2
3 内 容 ヨーロッパの建築を髣髴とさせるガラス屋根だったまぼろしの美術館が日吉八幡神社境内のどこに建設され、壁画がどのように展示される予定だったかを、リアルな映像と模型で紹介した。あわせて、藤田がまぼろしの美術館に飾ることを想定していた絵画を展覧。また、藤田は自身の個人ギャラリーのビジョンを固め、平野は藤田作品を中心にしながらも多岐にわたるジャンルを網羅する美術館をイメージしていたことを、当時の資料で明らかにした。

4 入場者数 20,467人

(3) 特別展示事業

特別展 田園にて―秋田の風景・子ども・女たち―

- 1 会 期 平成27年5月10日(日)～平成27年7月21日(火)
2 会 場 ギャラリー1・2
3 内 容 秋田市立千秋美術館所蔵の木村伊兵衛の作品、秋田県立近代美術館所蔵の千葉禎介の作品を中心に、秋田の田園風景とそこに生きる人々を撮影した写真を展覧した。同時代の高橋萬年の日本画、勝平得之の版画もあわせて展示し、1950年代から60年代の秋田を表現した芸術家のそれぞれの思いを紹介した。展覧会では、日本の代表的写真家・木村が秋田を撮影した写真群の重要性を示し、横手市の千葉禎介が東北を代表する優れた写真家であることを紹介した。千葉が撮影地とした県南からの来館者が目立った。県内はもちろん県外からの来館者から、秋田の原風景を表現した千葉の写真に感動の声が寄せられた。県立美術館が、秋田をテーマにした展覧会を開催し、秋田の文化力を発信することの意義を確認した展覧会であった。

4 入場者数 9,508人

特別展 藤田嗣治の小宇宙 ～私のアトリエによろこそ～

- 1 会 期 平成28年1月21日(木)～平成28年3月21日(月)
2 会 場 大壁画ギャラリー、ギャラリー1・2
3 内 容 藤田が日本で営んだアトリエは4室を数える。渡仏前、鴫田とみと暮らした大久保、1933年の帰国後に建てた戸塚、戦争画を描くために洋風に改築した下六番町、戦後、疎開先から戻った江古田のアトリエである。加えて、壁画《秋田の行事》の制作現場である平野家の米蔵も重要なアトリエといえる。戸塚以降、1930年代から40年代に構えたアトリエは、自らの画業の方向性を見据えた藤田が、制作のモチベーションを高めるインテリアを整えていた。この展覧会では、アトリエの室内を描いた作品と、そこで制作した作品を、アトリエの一部を再現した空間に展示した。土門拳撮影写真や映画「FOUJITA」の小道具を置いた再現展示が好評であった。日本のアトリエの変遷を辿る展覧会は、「時代」と連動する藤田の意識を浮かび上がらせ、来館者に好評であった。

4 入場者数 6,356人

※同時開催の展覧会の入場者数は、各々表記した。

Ⅱ 教育普及事業

(1) 講演会

企画展 「藤田嗣治と平野政吉 まぼろしの美術館 1936-1938」 関連講演会

- 1 講演会名 「まぼろしの美術館を再現する」
- 2 実施日 平成27年12月13日(日)
- 3 会場 レクチャールーム
- 4 講師 秋田県立大学准教授 込山敦司氏
- 5 内容 「まぼろしの美術館」のCG映像を製作した秋田県立大学の込山敦司准教授が、藤田と平野の設計意図を明らかにし、1938年当時のふたりの想いを紐解いた。《秋田の行事》をより深く理解できる内容が好評だった。
- 6 参加者数 33人

特別展「藤田嗣治の小宇宙 ～私のアトリエによろこそ～」 関連講演会

- 1 講演会名 「フジタの戦争ー「死闘図」への道」
- 2 実施日 平成28年2月21日(日)
- 3 会場 レクチャールーム
- 4 講師 千葉工業大学教授 河田明久氏
- 5 内容 戦争画研究の第一人者である河田明久氏が、アジア太平洋戦争末期に、藤田が描いた「死闘図」の成立の事情と社会的な機能について講演した。戦争へ向かう時代の美術を巡る状況と、藤田の資質を考え合わせ、「死闘図」を俯瞰的に考察する内容に、参加者は熱心に聴講していた。
- 6 参加者数 37人

(2) 美術館教室

美術館教室 「藤田嗣治の映画を巡る～嬉しい吾が郷土・角館～」

- 1 実施日 平成27年5月23日(土)
- 2 会場 仙北市角館
- 3 内容 藤田嗣治は1936年3月に映画の撮影で角館(秋田県仙北市)を訪れ、角館を「嬉しい吾が郷土」と呼び、その印象を心に留めた。美術館教室では、藤田の角館での足跡を辿りながら、藤田が惹きつけられた仙北歌謡団、その団を率いていた小玉暁村との交流についても紹介した。

特別展「田園にて」 関連イベント

- 1 事業名 「早苗饗と一く」
- 2 実施日 平成27年6月14日(日)
- 3 会場 レクチャールーム、3階ギャラリー
- 4 内容 展示会のテーマである「秋田の田園」に関連して、田の神を送る行事「早苗饗(さなぶり)」を冠したイベントを開催した。安原盛彦氏のレクチャーと、特別展の出品作品を所蔵する各館の学芸員のギャラリートークで構成。安原氏が、「農村の景観と文化」という演題でレクチャーし、その後、米山茉未学芸員が木村伊兵衛撮影写真を、鈴木京学芸主事が千葉禎介撮影写真を、そして奈良香学芸主事が高橋萬年の作品について解説。真剣に耳を傾けた参加者から好評を博した。秋田県立美術館、秋田県立近代美術館、秋田市立千秋

美術館の三者連携イベントとして初めて開催したもので、有意義であった。

5 参加者数 25人

ワークショップ「夜の庭－絵本の中の世界をコラージュしよう－」

1 実施日 平成27年8月8日（土）

2 会場 レクチャールーム

3 講師 浅野壽里氏

4 内容 絵画・英語教室「森のおと」（能代市）を主宰する浅野壽里氏が講師に迎え、ワークショップを実施した。呼吸を整え、心を整えるためにヨガを行い、その後、講師が絵本『ムーン・ジャンパー』を朗読。耳を傾けた参加者は瞑想し、その時のイメージを抱きつつ、水彩絵の具で作った色紙でコラージュを制作。参加者それぞれが感じた絵本の世界観を画用紙の上で表現した。

5 参加者数 25人

ワークショップ「からだで遊ぶ《秋田の行事》」

1 実施日 平成27年8月22日（土）

2 会場 大壁画ギャラリー、美術館入り口

3 講師 UK ジャズダンサー YOSHITAKA 氏

4 内容 壁画を視覚だけでなく、さまざまな角度から鑑賞してもらうために企画した身体表現のワークショップ。ダンサーの YOSHITAKA 氏を講師に壁画を鑑賞後、竿燈まつりや秋田音頭の動きや衣装を模倣し、撮影した写真をコラージュして自分たちのからだで《秋田の行事》を再現した。最後は竿燈のお囃子を合わせた YOSHITAKA 氏のダンスを鑑賞した。

5 参加者数 40人

ワークショップ「ハロウィンアクセサリをつくろう」

1 実施日 平成27年10月31日（土）

2 会場 レクチャールーム

3 内容 ハロウィンの日にちなみ、熱を加えると縮むプラバンを使って、お化けカボチャや猫、こうもり、ゴーストなどハロウィンモチーフのアクセサリを作った。

4 参加者数 10人

企画展「藤田嗣治と平野政吉 まぼろしの美術館 1936-1938」関連イベント

1 事業名 ギャラリートーク+ワークショップ「まぼろしの美術館での壁画鑑賞を体験！」

2 実施日 平成27年8月22日（土）

3 会場 レクチャールーム

4 講師 秋田県立大学准教授 込山敦司氏

5 内容 まぼろしの美術館のCG映像を、製作者である込山敦司氏が解説。その後、壁画《秋田の行事》に真横から向き合うワークショップを開催。参加者が脚立に登り、視線を床上約2メートルの位置に上げ、まぼろしの美術館での鑑賞を疑似体験した。

6 参加者数 12人

(3) ギャラリートーク

企画展「藤田嗣治の旅Ⅰ－中南米からアジアへ－」関連ギャラリートーク

1 実施日 平成27年4月18日（土）

2 会場 ギャラリー1・2

3 参加者数 4人

企画展「藤田嗣治の旅Ⅱーマドレーヌの好きなメキシコー」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成27年7月25日(土)・8月15日(土)・9月19日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 参加者数 37人

企画展「藤田嗣治と平野政吉 まぼろしの美術館 1936-1938」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成27年10月24日(土)・12月19日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 参加者数 22人

特別展「田園にてー秋田の風景・子ども・女たちー」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成27年5月16日(土)・6月20日(土)、7月18日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 参加者数 62人

特別展「藤田嗣治の小宇宙～私のアトリエにようこそ～」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成28年1月30日(土)・2月20日(土)、3月19日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 参加者数 30人

常設展関連 定例ギャラリートーク《秋田の行事》を読み解く

- 1 実施日 毎月第1土曜日・8月3日・4日・5日・6日
- 2 会場 大壁画ギャラリー
- 3 参加者数 239人

(4) イベント

エリアなかいち関連イベント

- 1 事業名 「童っこをさがせ！」
- 1 実施日 平成28年2月6日(土)、7日(日)
- 2 会場 にぎわい交流館AU1階
- 5 内容 壁画《秋田の行事》のレプリカを見ながら、80年ほど前の秋田で子どもたちは何をして遊んでいるのか、どんな服装をしているのか、どんな表情をしているのかなど子どもたちに焦点を当て、壁画のモチーフについて解説した。
- 6 参加者数 10人

ミュージアムコンサート

- 1 事業名 ジャズコンサート&トークショー「まぼろしの美術館で《秋田の行事》を舞う」
- 2 実施日 平成27年10月17日(土)
- 3 会場 日吉八幡神社 境内
- 4 講師
- 5 内容 藤田嗣治と平野政吉が夢に描いた美術館の建設予定地において、そこで鑑賞されるはずだった壁画をジャズとダンスで構成したコンサート。トークショーでは、まぼろしの美術館をCGで再現した込山敦司氏が建築学的に、ニッポン画の山本太郎氏は画家の立場から、YOSHITAKA氏は壁画の躍動感を身体的にそれぞれの立場からアプローチした。
- 6 参加者数 400人

Ⅲ 調査研究事業

- ・秋田魁新報 ギャラリーと〜く 平成27年7月8日(水)
原田久美子 特別展「田園にてー秋田の風景・子ども・女たちー」出品作品解説
(木村伊兵衛撮影《大曲市大曲西根》秋田市立千秋美術館蔵、千葉禎介撮影《夕陽の頃》
秋田県立近代美術館蔵)
- ・秋田魁新報 ギャラリーと〜く 平成28年3月9日(水)
原田久美子 特別展「藤田嗣治の小宇宙〜私のアトリエによろこそ〜」出品作品解説
(藤田嗣治《優美神》聖徳大学蔵、土門拳撮影《江古田のアトリエ》土門拳記念館蔵)
- ・シンポジウム「秋田の民謡、人と唄をたどる」あきた郷土芸能推進協議会
平成27年8月26日(水)
原田久美子 「小玉暁村と藤田嗣治の邂逅」
- ・講演会(あきたスマートカレッジ連携講座 新鮮! 県美ゼミ) 秋田県生涯学習センター
平成27年10月9日(金)
原田久美子 「藤田嗣治と平野政吉 まぼろしの美術館 1936-1938」
- ・講演会(中央公民館地域別学習講座) 秋田市中央公民館 平成27年10月28日(水)
原田久美子「藤田嗣治 秋田の壁画と美術館」
- ・講演会 東北地区特別支援学校知的障害教育校長会 平成27年11月6日(金)
原田久美子「藤田嗣治 秋田の壁画と美術館」
- ・みるかネットギャラリートークリレーセッション 平成27年5月16日
佐々木佳苗 《秋田の行事》の解説、平野政吉コレクションの解説

Ⅳ 美術ホール運営事業(貸しホール事業)

1. 事業内容

- ①県主催事業等の使用に対し、展示構成を確認、適切な展示作業監視・作業指導を行った。
- ②美術ホールと展示室の一体的な利用を促進した。
 - ・児童・生徒のセカンドスクールや職場体験の一環として、美術ホールの展覧会と展示室の藤田嗣治作品の連携鑑賞を行った。

2. 実績

総入場者数 61,406人

- ・鉄拳のパラパラマンガの世界展 7月4日(土)~7月20日(月)
入場者数: 6,080人
- ・岩合光昭写真展 ねこ・いぬ 7月25日(土)~8月23日(日)
入場者数: 10,963人
- ・池田修三展 プロフィール 9月19日(土)~10月12日(月)
入場者数: 12,908人
- ・2015県民作品展 10月17日(土)~10月25日(日)
入場者数: 2,472人
- ・明和電機ナンセンスマシンーズ展 in AKITA 11月7日(土)~11月29日(日)

V売店事業

1. 事業内容

- ・インターネットでの《秋田の行事》額絵販売。
- ・秋田県立美術館ミュージアムショップ運営業者・光風舎へ委託販売。

2. 実績

・売り上げ総計 38品 6,056枚 実績の詳細は、資料1のとおり

内訳

《秋田の行事》レプリカ 767枚

《秋田の行事》額絵 83枚

クリアーファイル 1,113枚

絵はがき33種 4,085枚

その他 8枚

※事業の詳細は、付属明細書のとおり